

## 日本人と日本の国土について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、土木技術者に多くの教訓を残しました。一方で、未曾有の災害に際しても、他者への気遣いや礼節を守り続ける日本人の国民性は、諸外国から称賛を受けました。先日のブラジルW杯でも、日本代表の試合後に日本人サポーターが観客席のごみ拾いをしたことが多くの海外メディアに取り上げられ称賛を受けています。日本人にとっては普通のことですが、世界の目には特異に映る、この国民性は一体どこから来るのでしょうか？

先日、「人類哲学序説」(梅原猛・岩波新書)を読みました。この本では、日本文化の根本思想は縄文文化の狩猟採集・漁労採集文化にあり、人類の原初文化「アニミズム」～あらゆるものに霊が宿り、あらゆるところに神がいるという世界共通の文化～である、と述べられています。

縄文文化？何となく想像したのは「はじめ人間ギャートルズ」というアニメです。石器の槍を持ってマンモスを追いかけるお父さん達の姿は日本人らしい？あまりピンときません。本を読み進むと、「この縄文文化をほぼそのまま伝えているのがアイヌ文化である」とありました。確かに、中国、韓国などの外国の文化と比べると、アイヌの文化の方が共感を覚えます。何となく納得です。

しかし、「そもそも日本は農耕民族だし、世界中どこでも狩猟採集から農耕に移ったのでは？」と疑問に思えます。ここで国土の話が出てきます。日本は、海に囲まれ豊かな森があり狩猟採集文化としてはとても恵まれていたので、農業がなくても十分豊かな生活ができていた、このため農業が導入されたのが他国に比べて遅く縄文文化がとても発達したそうです。確かに、大陸国家と比べると、海岸に行けば貝は採れるし川には鮭は昇ってくるし、恵まれていそうです。このため、岡本太郎曰く「日本の芸術でただ一つ素晴らしいのは縄文土器だけだ」という文化が開花したのだとか。

しかし、日本もその後、農耕民族に変わったのは他国と同様ですよ？ここでも国土の話が出てきます。

日本に渡来した人々は、黄河文明から追い出された長江文明の稲作民族のようです。しかし、日本の地形は急峻で森林面積は3分の2もあり、稲作適地も少なかった。このため、渡来人の人数は元からいた日本の縄文人より圧倒的に少なかったようです。言語学では「ある言語を持つ民族が別の言語を持つ国の民族を占領したとき、渡来民族が土着民族に比べ圧倒的に少ない場合、土着民族の言葉になる」と言われています。これも何となく納得できます。渡来人は凄い武器を持っていたかもしれませんが、多勢に無勢、文化を塗り替えることはできなかったのでしょうか。渡来してきた人たちが稲作文化だったことも幸いでした。縄文文化では「神様は森にいる」とされていましたが、稲作文化にとっても「森は水を与えてくれる神的存在」であり共通性があります。こうして縄文文化の思想が継続していったようです。

ここまでは本の受け売りですが、最後に生活実感から。

私は大阪出身ですが、北海道人の方が日本人らしく感じます。特に思うのは、ドカ雪が降った日で、早朝にお隣さんと「嫌になりますね」と言いながら雪ハネをするとき。お互いに自分の家の敷地より少しずつ多めに雪ハネをするなど自然な気遣いがあり、とても日本人らしく感じます。本州でも昔は、毎年の台風のために村人総出で水防活動をしたり、地震のために地域で助け合って復旧したりしていたことでしょうか。こういう厳しい自然環境にある日本の国土が、皆で協力し合わないと生きていけない風土が、日本人の国民性を作ったのではないかと思います。

最後に。この本では、「人類存続の危機といわれる現代、人類社会を持続的に発展せしめる人類哲学が日本文化の中に含まれている」と言っています。だとすると、「北海道の国土づくりにかかわる寒地土木研究所の仕事は、世界を救う一助になるのかもしれない」などと大袈裟なことを言って締めたいと思います。

(企画室長 加納 民雄)

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。